

主イエス・キリストのとりなし

とりなしの祈り①
ヘブル7:25～27

前回まで、エリヤとダニエルの祈りについて学んできました。エリヤやダニエルに神様が必要とされたのは、神と人との間に入っての「とりなしの祈り」でした。

しかし私たちは、「とりなしの祈り」と「とりなしの御業」とは意味が違うことを踏まえなければなりません。新約の私たちは、イエス様が十字架の上で血を流し、生け贄として自らを献げ、神と人との間に入ってまず「とりなしの御業」をして下さった事実を確認することが必要です。私たちはこの「とりなしの御業」によって開かれたルート(例えばエスカレーター)の上に自分の思い、願いを乗せて祈ることができるのです。

私たちは主イエス・キリストの名により、天地創造の偉大な神に近づき、大胆に「とりなしの祈り」をささげることができるのです。

聖書の学び

I、とりなしの意味

1、「とりなし」「とりなしをする」とはどのような言葉でしょうか？

語句の意味 (取りなす・執りなす日本語では殆ど同じ意味)

※とりなす = 仲介する・間に入る
Intercede

- ・仲介する = 二者の間に入り事態が好転するようにはからう。
mediate
- ・間に入る = 別の人の代理になり、仲裁する・身代わりとなる

2、裁判所などで行われる弁護士の「とりなし」の働き(国や時代により異なる)

(被告人の代理)

裁判官 ←← 弁護士 ↔ 被告人(弁護士の顧客)

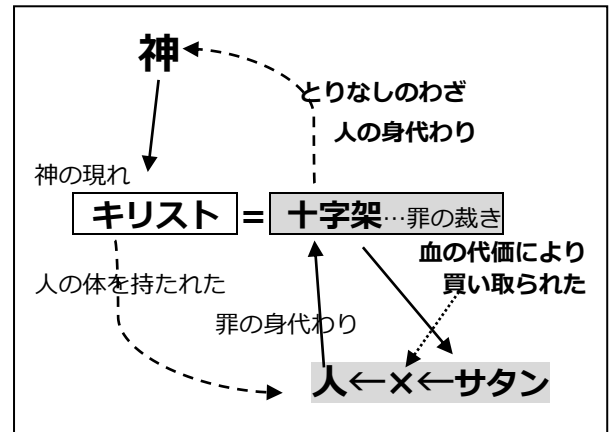
※ 国の法律の専門家であり弁護士の資格を有する者は、顧客である被疑者・被告人の代理として裁判官に仲介する働きをする。

Ⅱ、神と人を とりなされるキリスト

1、天地創造の神の現れである イエス・キリスト

① 憐れみ深い神を説き明かされた
キリスト (ヨハネ1:18)

② キリストは永遠に存在される神で
ある方である。(ヘブル7:24)



2、罪深い人間の身代わりとなられたイエス・キリスト

① 人間の身代わりになるため主イエス・キリストも体を持たれました。
(ヨハネ1:14)

② 私たちの罪のため身代わりとして死なれた (Iペテロ2:24)

③ 天の聖所で、人の罪を取り除くために、ご自分の生け贄の血を献げられた。
(ヘブル7:27)

3、ご自分を十字架で生け贄として捧げられた

今も、永遠の大祭司として、とりなしておられる。(ヘブル7:25)

Ⅲ、サタンと人を 切り離されたキリスト

1、サタンの奴隷となっている人を、十字架の血の代価を払い買い取られた。(Iコリント6:20)

2、サタンの支配、罪の奴隷から解放され、聖霊によりイエス・キリストの支配に移される。(ローマ6:6)